

考えている。とにかく本号がこの地域の沢の特集号としては最後となる。調査も最後の段階ということで、大きな沢はなく、地域的にもあちこち散らばっているが、資料としてご活用していただきたいと思う。

稲子沢本誌

車ノ沢左俣

1985年9月15日

L:

車をデポすることになっていた稲子部落の先、杉沢橋に着いた所で、ニホンザルの群れに会った。ゆうゆうと道路を横切って樹林の中に消えていったが、珍しいものを見せてもらい感激。

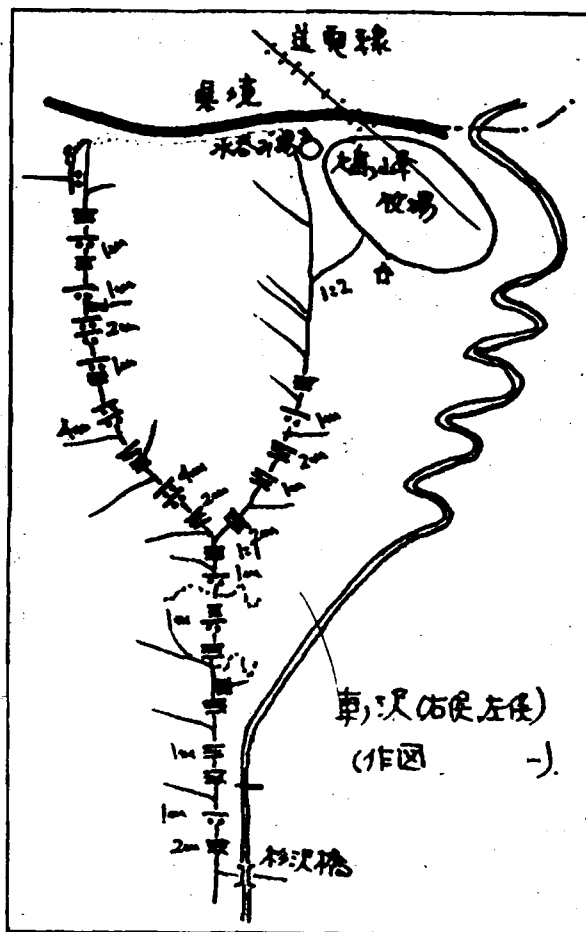
杉沢橋のたもとに車をデポし、沢に下って8:30遡行開始。沢は所々にナメ床状のものがポツリ、ポツリとあるだけで、平凡な河原歩きが続く。そして、我々に先行するかのよう釣人の足跡がしっかりとついている。

沢に入って約1時間で二俣となる。左俣を遡行して右俣を下降するというので、まず左俣に入る。

10分といかないうちに4mの滝がかかる。直登で突破。さらにその先に4m。これも直登で突破する。これ以降は、ナメと1~2mの小滝が適当にある。進むにつれて沢の勾配はどんどん急になり、沢幅も狭くなっていく。源頭部に近いあたりで、右岸から8mの滝が落ちていた。

11:20 沢の形態もはっきりしなくなったので遡行終了とし、藪こぎ開始。15分で稜線に飛び出す。

稜線で昼食をとった後、稜線上を北に向かって藪こぎ開始。この稜線は、地図に小道記号が



あるのに、ほんの所々に面影があるだけで、距離にして1km程の間はまったくの藪ごぎである。1時間程こいだ所で送電線の下に出て、ようやく藪ごぎから解放される。

【タイム】 遡行開始(8:30)→二俣(9:25)→終了(11:20)→獲線(11:35)→送電線下(12:40)

林檎遊記

車ノ沢右俣

1985年9月15日

L

守

送電線の管理のため刈り払いされた所を鳩峰牧場に向けて下降。牧場の途中より沢に入る。下降開始点は、牧場の動物達の為の水呑み場であった。

牧場を左手にみながらどんどん下降する。牧場の端あたりで右俣の本流と合流し、更に下降を続ける。そのうち沢は明るくなり、何の変化もないままに二俣となり、本日の予定の行動を終える。

(記・ハルハル)

【タイム】 鳩峰牧場・下降開始(13:00)→二俣(14:15)

後沢下流部

1985年7月21日

L

功

落合橋から遡行を開始する。河原を遡んでゆくと、すぐに板谷沢の出合に着く。後沢の方がいくらか水量が多い。このあたりの木々は、いたる所に収獲調査周測の表示がされている。いずれ、伐採される運命にあるようだ。

依然河原歩きが続く。途中、広々とした杉の造林地が現われる。7年生くらいの木がありそうだ。元にもどるにはあと何年かかるのだろうか、気の遠くなる話である。

15:55遡行を開始して1時間10分で七ヶ宿に至る道路に出る。ここで遡行を終了とし、道路を歩いて落合橋にもどる。

茂庭の沢を歩いて感じる事だが、林野行政は、民間の営利優先の林業では日本の緑を守れないとして、

